

令和3年度
編入学生募集要項
入学案内



願書受付期間	令和2年 8月 3日(月)～令和2年 8月 6日(木) (受付最終日は午後4時必着のこと)
検 査 日	令和2年 9月 3日(木)
合格発表日時	令和2年 9月 9日(水) 午前10時
入学確約書提出期限	令和2年 9月16日(水)

独立行政法人 国立高等専門学校機構
米子工業高等専門学校
National Institute of Technology, Yonago College
学生課教務係

〒683-8502 鳥取県米子市彦名町 4448

電話 0859-24-5022

FAX 0859-24-5029

ホームページ <https://www.yonago-k.ac.jp/>

目 次

編入学生募集要項

I アドミッションポリシー	1
II 募集人員	1
III 選抜方法	
1 出願資格	1
2 願書受付	1
3 出願手続	2
4 出願上の留意事項	3
5 受検上及び修学上特別な配慮を必要とする入学志願者の事前相談について	3
6 選抜の実施方法	3
7 合格者の発表	4
8 入学確約書の提出	4
9 個人情報保護について	4
10 その他	4

編入学案内

1 本校概要	5
2 教育課程	8
3 学科紹介	
機械工学科	10
電気情報工学科	10
電子制御工学科	10
物質工学科	11
建築学科	11
4 入学時に必要な経費	11
5 奨学金制度	11
6 入学料・授業料免除制度	12
7 学生寮	12
別表（1、2） 教育課程表	
一般科目	13
機械工学科	14
電気情報工学科	15
電子制御工学科	16
物質工学科	17
建築学科	18

出願書類等

出願に必要な書類は本校ウェブサイト (<https://www.yonago-k.ac.jp/doc/entrance/702>) からダウンロードしてください。

編入学生募集要項

I アドミッションポリシー

本校の編入学者に期待される人間像は、次のとおりです。

- ①専門分野の基礎となる学力を有する人
- ②自ら創意工夫をして物事に積極的かつ継続的に取り組める人
- ③文化や自然環境に対する広い視野を持ち、周囲の人と協調しつつコミュニケーションができる人

II 募集人員

学 科	募集人員	編入学年
機 械 工 学 科	若干名	第 4 学 年
電 気 情 報 工 学 科	若干名	
電 子 制 御 工 学 科	若干名	
物 質 工 学 科	若干名	
建 築 学 科	若干名	

III 選抜方法

1 出願資格

次のいずれかを卒業した者又は令和3年3月卒業見込の者

- (1) 工業高等学校
- (2) 高等学校の工業に関する学科、普通科及び理数科

2 願書受付

- (1) 受付期間 令和2年8月3日(月)から8月6日(木)まで(土日は除く)
- (2) 受付時間 午前9時から午後4時まで(郵送の場合も、8月6日(木)の午後4時までに必着)
- (3) 受付場所 米子工業高等専門学校 学生課教務係
〒683-8502 鳥取県米子市彦名町 4448

3 出願手続

志願者は、次の（１）から（６）の書類等を取り揃え、提出してください。

出願に必要な書類は本校ウェブサイト（<https://www.yonago-k.ac.jp/doc/entrance/702>）からダウンロードしてください。

出 願 書 類 等	摘 要
(1) 編 入 学 願 書	本校所定の用紙に必要事項を記入してください。 願書受理後、受検番号を記載した受検票を送付します。
(2) 受 検 票	
(3) 写 真 票	
(4) 志 願 調 査 書	
(5) 調 査 書	在学又は出身学校所定の用紙により、学校長が作成し、厳封してください。 卒業見込みの場合、第2学年までの成績を記入してください。
(6) 卒業証明書又は 卒業見込証明書	在学又は出身学校所定の用紙により、学校長が作成し、厳封してください。
(7) 振込受付証明書提出票	<p>入学検定料 16,500 円 振込受付期間 令和2年7月21日（火）～ 令和2年8月6日（木）</p> <p>銀行からの振込みの場合</p> <ul style="list-style-type: none"> 本校所定の入学検定料振込依頼書により、志願者本人の名義で金融機関（銀行）の窓口から振り込んでください。 ATM（現金自動預払機）、インターネットバンキングからの振込みはしないでください。 取扱金融機関収納印を押した振込受付証明書を必ず受け取り、振込受付証明書提出票の所定の位置に貼り付けてください。 <p>郵便局（ゆうちょ銀行）からの振込みの場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ゆうちょ銀行から他の金融機関への振込みは、<u>口座からのみ可能で、現金による振込みは出来ません</u>。ご利用の際は、『通帳とお届け印』が必要です。ATM（現金自動預払機）、インターネットバンキングからの振込みはしないでください。 ゆうちょ銀行からの振込みの場合は、窓口で「ゆうちょ銀行専用の振込依頼書」を受け取り、志願者本人の名義で次のとおり振り込んでください。 <p>金融機関名： 山陰合同銀行 米子支店 預金種目： 普通 口座番号： 3658000 受取人フリガナ： ドク)コクリツコウトウセンモンガッコウキコウ ホンプスイトウメイレイヤクジムキョクチョウ 受取人名まえ： 独立行政法人国立高等専門学校機構本部 出納命令役事務局長</p> <ul style="list-style-type: none"> 振込後は「振込依頼書（お客様控）」を受領し、原本を振込受付証明書提出票の所定の位置に貼り付けてください。（お客様控が必要な場合は、コピーをお手元に保管ください。）」 <p>※いずれの振込みも、振込時に必要な手数料は志願者本人の負担になります。</p>

	<p>検定料の免除について</p> <p>・令和2年度に、災害救助法の適用を受ける災害に被災し、居住する家屋が被害を受けた場合に、申請により検定料の免除を行える場合があります。該当される方は、<u>検定料を振込む前に</u>学生課教務係(Tel0859 - 24 - 5022) までお問い合わせください。</p>
--	--

4 出願上の留意事項

- (1) 郵送での出願は、必ず「書留郵便」とし、封筒の表に「編入学出願書類在中」と朱書きしてください。
 - (2) 必要事項の未記入など、不備のある出願書類は受け付けません。記載事項を訂正する場合は、訂正箇所を二重線で抹消し、押印のうえ、訂正事項を記入してください。
 - (3) 願書提出後は、志望学科及びその他の記載事項の変更を認めません。また、受理した出願書類は返還しません。
 - (4) 出願書類の記載事項と相違の事実が判明した場合は、入学後であっても入学許可を取り消すことがあります。
 - (5) 受理した検定料は次の場合を除き、いかなる理由があっても返還しません。
 - ・ 検定料を払い込んだが、出願しなかった場合
 - ・ 検定料を誤って二重に振り込んだ場合
- ※ 返還請求手続は、8月21日(金)までに以下の方法で行ってください。

返還請求の方法

①返還請求の理由、②氏名(ふりがな)、③現住所、④連絡先電話番号、⑤返還先の口座の金融機関名、支店名、預金種別、口座番号、口座名義(フリガナ)及び口座名義人と志願者本人との続柄を明記した検定料返還請求願(様式は問わない)を作成し、必ず振込金領収書(ゆうちょ振込の場合は、通帳のコピー)を添付して、下記送付先に速やかに郵送してください。返還には、検定料返還請求願を受理した後、約2~3ヶ月程度の期間を要します。なお、返還に係る振込手数料は、請求者の負担となります。

送付先 〒683-8502 鳥取県米子市彦名町 4448
米子工業高等専門学校 総務課財務係

5 受検上及び修学上特別な配慮を必要とする入学志願者の事前相談について

障がいがある者等、受検上及び修学上特別な配慮を必要とする者は、令和2年7月21日(火)までに「事前相談について」(添付の様式参照)を、米子工業高等専門学校 学生課教務係へ提出し、相談してください。

なお、本校が必要と認める場合には、本校において志願者又はその立場を代弁し得る出身学校関係者等との面談等を行います。

6 選抜の実施方法

編入学者の選抜は、志願調査書及び調査書の内容を総合して判定します。

7 合格者の発表

令和2年9月9日（水）午前10時に、合格者の受検番号を本校で掲示発表するとともに、受検者及び在籍（出身）学校長に可否の結果を文書で通知します。（電話等による可否の問い合わせには応じません。）

なお、合格発表の日から1週間、本校ホームページ（<https://www.yonago-k.ac.jp/>）にも、合格者の受検番号を掲載します。

8 入学確約書の提出

合格通知を受けた者は、入学確約書（合格通知に同封）を郵送にて提出してください。
なお、入学確約書を提出しないと、本校への入学の意志がない者として取り扱います。

提出期限 令和2年9月16日（水）（必着のこと。）
提出場所 米子工業高等専門学校 学生課教務係
〒683 - 8502 鳥取県米子市彦名町 4448

9 個人情報保護について

入学志願者から提出された入学願書や調査書等に記載されている情報及び選抜に用いた成績・評価といった入学者選抜を通じて取得した個人情報は、入学者選抜の資料として利用するとともに、次の目的のためにも利用します。

- (1) 入学後の教育・指導
- (2) 入学料・授業料の免除申請の審査
- (3) 奨学金申請の審査
- (4) 本校及び国立高等専門学校全体の教育制度・入学者選抜制度の改善のための調査・研究

10 その他

受検については、以下へ問い合わせください。

米子工業高等専門学校 学生課教務係（Tel0859 - 24 - 5022）

編入学案内

1 本校概要

本校は、昭和39年4月に設置された国立の工業高等専門学校で、5年間の一貫教育によって豊かな教養と高度な専門技術を具備した有能な技術者を育成することを目的としています。

卒業生の大半は就職して産業界で活躍していますが、進学を希望する者には多くの国立大学に編入学する道が開かれています。進学した学生の大部分は大学院へも進み、学術研究に励んでいます。

また、平成16年には大学学部と同等の教育研究機能をもつ2年制の専攻科が設置され、学士学位の取得が可能となり、より高度な技術・研究者を養成するとともに、大学院への直接進学もできることとなりました。

(1) 本校の目的

- ・ 米子工業高等専門学校は、教育基本法（昭和22年法律第25号）の精神にのっとり、学校教育法（昭和22年法律第26号）に基づいて、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする。
- ・ 専攻科は、高等専門学校における教育の上に、精深な程度において工業に関する高度な専門的知識及び技術を教授研究し、もって広く産業の発展に寄与する創造性豊かな人材を育成することを目的とする。

(2) 本校の教育目標

① 教育理念

我が国の将来を担うものづくりの基盤技術を支える創造性に富んだ技術者を養成するため、地域社会と連携し、実験・実習を重視した実践的な技術教育を行う。

② 養成すべき人材像

本校では、この教育理念に基づき、次のような人材を養成することを目標にしています。

- ア 豊かな感性と高い倫理観に裏打ちされた幅広い教養を持つ人材
- イ 専門的知識と技術を活用して、実践的なものづくりを行える人材
- ウ 主体的に問題を発見し、それを解決していく能力を有する人材
- エ 環境保全も視野に入れて国際的に活動するとともに、地域への貢献が果たせる人材
- オ 幅広い工学知識を複合させ、活用できる人材

(3) 学習・教育目標

本校では、上記の人材を養成するため、学生が身につけるべき能力として次の学習・教育目標を定めています。

- A 技術者としての基礎力
- B 持てる知識を使う応用力
- C 社会と自らを高める発展力
- D 地球の一員としての倫理力
- E 社会とかかわるためのコミュニケーション力

(4) 学科及び専攻ごとの教育目標

・教養教育科

教養教育科は、専門教育を習得するための基礎的な能力を育成するとともに、社会人として必要な知識、技術を教授し、人格を形成し、教養を豊かにし、国際社会の中で活躍できる有為な人材を育てる。

・機械工学科

機械工学科は、機構、構造、材料などの運動や力学に関する基礎知識を基に、機械システムを設計・開発する能力を有し、更にこのシステムをコントロール可能な機械制御システムとして扱うことができる実践的技術者の養成を目標とする。

・電気情報工学科

電気情報工学科は、電気エネルギーから情報通信に至るまで、電気・電子・情報関連の幅広い知識や技術を習得し、設計、開発、管理などの業務に従事できる実践的技術者の養成を目標とする。

・電子制御工学科

電子制御工学科は、組み込みマイコン及びロボット制御に関する専門的知識と技術を「情報」、「電気電子」、「機械制御」の各分野について幅広く習得することにより、ものづくりの基盤技術を支える創造性に富んだ実践的技術者の養成を目標とする。

・物質工学科

物質工学科は、化学及び生化学を基盤とし、それらから派生する工学の基礎知識と技術を備えた実践的技術者の養成を目標とする。

・建築学科

建築学科は、社会環境及び建築技術の革新に合わせた知識・技術を習得し、建築の企画、設計、生産に従事する創造的な実践的技術者の養成を目標とする。

・生産システム工学専攻

生産システム工学専攻は、本科で学んだ機械工学、電気情報工学、電子制御工学分野の基礎知識と技術を基に、他分野の幅広い知識を修得し、学際的な技術分野における問題解決能力を備えた実践的開発型技術者の養成を目標とする。

・物質工学専攻

物質工学専攻は、材料工学及び生物工学に関する基礎的な知識・技術と、それらを個別の問題に対して応用・発展させることのできる力を身につけ、幅広い視野に立って総合的な問題解決ができる実践的開発型技術者の養成を目標とする。

・建築学専攻

建築学専攻は、建築・都市・地域計画、建築環境及び建築構造に関する高度な知識と技術を身につけ、幅広い視野に立って問題解決できる創造性に富んだ実践的開発型技術者を養成することを目標とする。

(5) ディプロマ・ポリシー

【本科】卒業認定方針（ディプロマ・ポリシー）

次に示す能力（教育目標に対応した達成目標）を身につけ、学則で定める修業年限以上在籍し、所定の単位を修得した学生に対し卒業を認定しています。【 】内は、対応する学習・教育目標

- ① 学び習得した知識を適切に表現し、活用することができる。【A】
- ② 実験等で得られた結果について、すでに学んだ知識をもとに分析し、報告することができる。【B】
- ③ 関心のある分野について継続的に学習していくことができる。【C】
- ④ 地球や地域の環境保全を念頭に置きながら、社会生活を送ることができる。【D】
- ⑤ 日本語及び英語の資料等を読み、適切に理解することができる。【E】
- ⑥ 自らの考え等について分かりやすく関係者に説明することができる。【E】

【専攻科】修了認定方針（ディプロマ・ポリシー）

米子高専専攻科では、所定の期間在学し、所属専攻において定める分野に関して所定の単位を修得し以下のような能力を身につけた学生に対して、修了を認定します。

専攻科修了者の達成目標

- ① 工学に関する様々な問題等を自ら発見することができる
- ② 発見した問題を解析し、自ら設定した行動計画の下で解決することができる
- ③ 専門的な英語の文献等を読み、理解することができる
- ④ 自らの専門的知識・技術及び関連する分野の知識について、時代の進展に対応し、フォローアップすることができる
- ⑤ 持続可能な社会を念頭に置きながら、仕事その他の社会生活を送ることができる
- ⑥ 問題解決に向けて、チームの中で自己の意見を述べ、また他者の意見を聞きながら適切に作業を進めることができる
- ⑦ 専門分野の課題について報告書等を作成し、適切な資料を用いて関係者に分かりやすく説明することができる

・生産システム工学専攻・物質工学専攻

生産システム工学専攻及び物質工学専攻では、本科5年間で学んだ基本的知識と技術を基に応用技術に関わる教育を行うとともに分野を横断した知識を修得することで、両専攻の共通の理念である「複合」と「システムデザイン」をキーワードとし、自らの深い専門知識と幅広い工学分野の知識を複合化して創造的なものづくりができる技術を身に付け、多面的な視野に立って総合的な問題解決ができる実践的開発型技術者を養成することを目的としています。

A. 技術者としての基礎力

- ・数学、自然科学に関連した基礎知識を修得し、それらを駆使して専門分野の解析、理解に活用することができる
- ・技術を支える文化・社会的背景や問題に関心を持ち、専門分野の技術と文化・社会との関わりを念頭において行動できる
- ・全ての工学分野の底辺を支える基盤となる幅広い基礎知識を修得し、それらを複合的に駆使して様々な分野における現象の測定や解析、情報処理、設計・製造などに活用できる
- ・機械・電気電子・物質工学などの各自の専門に関連した分野について、様々な技術的問題を解決するための基礎として必要とされる知識を修得する

B. 持てる知識を使う応用力

- ・学習した専門基礎知識を体験的に理解し、それらを実証する方法の基礎を修得する
- ・グループまたは個人で研究課題に取り組み、解決すべき問題と課題を認識して、行動計画を立案実行できる。また、進捗に応じて計画を適宜修正しながら問題解決を行うことができる
- ・身に付けた専門知識を活用し、種々の制約条件の下で創造的な問題解決を行うことができる

C. 社会と自らを高める発展力

- ・研究の遂行や問題解決に必要な情報を自ら収集し、様々なツールを用いて分析・活用しながら研究等を進めることができる
- ・異なる専門分野の技術者等と協働し、必要に応じて他分野の知識も応用しながらチームとして問題解決を行うことができる

D. 地球の一員としての倫理力

- ・様々な工学分野における技術的視点から、工学理論の歴史、複合的先端技術への応用のための問題解決手法、情報セキュリティや安全性について修得し、それらを行動規範とすることができる
- ・技術立国擁立に必要な不可欠な知的財産権などの社会背景や具体的な特許明細の書き方などを修得する

E. 社会とかかわるためのコミュニケーション力

- ・専門的な英語の文献を読み、理解するとともに問題解決に必要な情報を取捨選択できる
- ・問題解決に向けて、チームの中で自己の意見を述べ、また他者の意見を聞いてそれを理解し、自己及び他者が取るべき行動を判断し、適切に作業を進めることができる
- ・専門分野の課題について報告書等を作成し、適切な資料を用いて関係者に分かりやすく説明することができる

・建築学専攻

建築学専攻では、建築を人間が社会生活を営む空間を創造する行為ととらえ、本科での5年間一貫したカリキュラムの特徴を活かしながら、更に2年間の専攻科での教育により、幅広い教養と豊かな人間性を備え、建築・都市・地域計画、建築環境及び建築構造に関する高度な知識と技術を身につけ、幅広い視野に立って問題解決できる実践的で創造力に富んだ技術者を養成することを目的としています。

A. 技術者としての基礎力

- ・数学、自然科学及び情報工学の基礎理論に裏打ちされた体系的な知識・技術
- ・社会・環境に配慮して建築を計画・設計するために必要な基礎知識・技術
- ・安全で合理的な建築の構造を計画・設計するために必要な基礎知識・技術
- ・建築の生産と保存・再生及び防災を計画・管理するために必要な基礎知識・技術

B. 持てる知識を使う応用力

- ・ 建築に関わる社会的・地域的な視点を養い、よりよい生活空間をその地域の風土を考慮し、機能的に計画・設計できる知識・技術
- ・ 建築の室内及び外部空間において、エネルギー負荷を考慮しつつ快適かつ適正な環境を保持するための環境要素の予測・評価・調整に関する知識・技術
- ・ 建築構造物の内外で安心して生活が営まれるよう、構造上安全かつ経済的な建築空間ならびに構造種別・形式を選択できる知識・技術
- ・ 持続可能な社会を念頭におき、建築に関わる生産、保存再生、防災を意図した計画技術

C. 社会と自らを高める発展力

- ・ 建築分野の基礎的な知識や技術を活かし、問題を解決するための実践的な知識
- ・ 建築分野の基礎的な知識や技術を活かし、新たな提案を発する能力

D. 地球の一員としての倫理力

- ・ 日本や世界の文化や歴史を多面的に認識し、建築技術が社会に与える影響を理解する能力
- ・ 誠実かつ信頼される技術者としての誇りと責任感

E. 社会とかかわるためのコミュニケーション力

- ・ 専門的な英語の文献を読み、理解するとともに問題解決に必要な情報を取捨選択する能力
- ・ 問題解決に向けて、チームの協働作業の中で適切に解決策を提案する能力
- ・ 専門分野の課題について報告書等を作成し適切な資料を用いて分かりやすく説明する能力

2 教育課程

本校の教育課程は、一般科目（別表1）、専門科目（別表2）のとおりです。第4学年編入学生は、第3学年までの単位を既に修得したものと認定し、第4学年以降の科目を履修します。

【教育課程の編成方針（カリキュラム・ポリシー）】

・ 機械工学科

我が国の将来を担うものづくりの基盤技術を支える創造性に富んだ技術者を養成するため、地域社会と連携し、実験・実習を重視した実践的な技術教育を行うことを教育理念とし、機械工学科では、機構、構造、材料などの運動や力学に関する基礎知識を基に、機械システムを設計・開発する能力を有し、更にこのシステムをコントロール可能な機械制御システムとして扱うことができる実践的技術者の養成を学科の教育目標として教育課程（カリキュラム）を編成しています。

具体的には、ディプロマ・ポリシーに掲げた学習・教育目標に対応した達成目標を身につけるため、以下の科目を開講しています。【 】内は、対応する学習・教育目標

【A】 教養基礎（数学、物理、化学など）、材料力学、流体力学、熱力学、機械力学など

【B】 実験実習、設計製図など

【C】 卒業研究など

【D】 環境科学、技術者倫理、社会科学など

【E】 国語及び外国語（英語、中国語など）

これらの科目に関わる単位修得の認定は、試験と出席状況、学習態度、演習の成果等を総合して認定します。

・ 電気情報工学科

我が国の将来を担うものづくりの基盤技術を支える創造性に富んだ技術者を養成するため、地域社会と連携し、実験・実習を重視した実践的な技術教育を行うことを教育理念とし、電気情報工学科では、電気エネルギーから情報通信に至るまで、電気・電子・情報関連の幅広い知識や技術を習得し、設計、開発、管理などの業務に従事できる実践的技術者の養成を学科の教育目標として教育課程（カリキュラム）を編成しています。

具体的には、ディプロマ・ポリシーに掲げた学習・教育目標に対応した達成目標を身につけるため、以下の科目を開講しています。【 】内は、対応する学習・教育目標

【A】 教養基礎（数学、物理、化学など）、電気回路、電気磁気学、情報処理など

- 【B】電気情報基礎実験、電気情報応用実験、電気情報工学演習など
- 【C】卒業研究など
- 【D】環境科学、技術者倫理、社会科学など
- 【E】国語及び外国語（英語、中国語など）

これらの科目に関わる単位修得の認定は、試験と出席状況、学習態度、演習の成果等を総合して認定します。

・電子制御工学科

我が国の将来を担うものづくりの基盤技術を支える創造性に富んだ技術者を養成するため、地域社会と連携し、実験・実習を重視した実践的な技術教育を行うことを教育理念とし、電子制御工学科では、組み込みマイコン及びロボット制御に関する専門的知識と技術を「情報」、「電気電子」、「機械制御」の各分野について幅広く習得することにより、ものづくりの基盤技術を支える創造性に富んだ実践的技術者の養成を学科の教育目標として教育課程（カリキュラム）を編成しています。

具体的には、ディプロマ・ポリシーに掲げた学習・教育目標に対応した達成目標を身につけるため、以下の科目を開講しています。【 】内は、対応する学習・教育目標

- 【A】教養基礎（数学、物理、化学など）、情報処理、電気・電子回路、ロボット制御工学など
- 【B】マイコン制御、ソフトウェア工学、工学実験実習など
- 【C】卒業研究など
- 【D】環境科学、技術者倫理、社会科学など
- 【E】国語及び外国語（英語、中国語など）

これらの科目に関わる単位修得の認定は、試験と出席状況、学習態度、演習の成果等を総合して認定します。

・物質工学科

我が国の将来を担うものづくりの基盤技術を支える創造性に富んだ技術者を養成するため、地域社会と連携し、実験・実習を重視した実践的な技術教育を行うことを教育理念とし、物質工学科では、化学及び生化学を基盤とし、それらから派生する工学の基礎知識と技術を備えた実践的技術者の養成を学科の教育目標として教育課程（カリキュラム）を編成しています。

具体的には、ディプロマ・ポリシーに掲げた学習・教育目標に対応した達成目標を身につけるため、以下の科目を開講しています。【 】内は、対応する学習・教育目標

- 【A】教養基礎（数学、物理、化学など）、分析化学、有機化学、無機化学、物理化学、生化学、化学工学など
- 【B】基礎実験、創造実習、物質工学実験など
- 【C】演習、卒業研究など
- 【D】環境科学、技術者倫理、社会科学など
- 【E】国語及び外国語（英語、中国語など）

これらの科目に関わる単位修得の認定は、試験と出席状況、学習態度、演習の成果等を総合して認定します。

・建築学科

我が国の将来を担うものづくりの基盤技術を支える創造性に富んだ技術者を養成するため、地域社会と連携し、実験・実習を重視した実践的な技術教育を行うことを教育理念とし、建築学科では、社会環境及び建築技術の革新に合わせた知識・技術を習得し、建築の企画、設計、生産に従事する創造的な実践的技術者の養成を学科の教育目標として教育課程（カリキュラム）を編成しています。

具体的には、ディプロマ・ポリシーに掲げた学習・教育目標に対応した達成目標を身につけるため、以下の科目を開講しています。【 】内は、対応する学習・教育目標

- 【A】教養基礎（数学、物理、化学など）、デザイン基礎、建築計画、建築構造など
- 【B】創造実験・演習、構造計画、設計製図など
- 【C】建築ゼミナール、卒業研究など
- 【D】環境科学、技術者倫理、社会科学など

【E】国語及び外国語（英語、中国語など）

これらの科目に関わる単位修得の認定は、試験と出席状況、学習態度、演習の成果等を総合して認定します。

3 学科紹介

機械工学科

機械工学科の教育目標は、機構、構造、材料などの運動や力学に関する基礎知識を基に、機械システムを設計・開発する能力を有し、更にこのシステムをコントロール可能な機械制御システムとして扱うことができる実践的技術者を養成することです。

工学技術は現代の社会生活の多方面にわたり深く関与するようになり、それにとまって技術者が社会に果たすべき責任が強く問われています。なかでも機械工学は技術社会を支える基盤であり、機械技術者は社会に対して重大な責任を負っています。機械工学科では技術者を目指そうとする学生の皆さんが、機械工学を基礎として社会に貢献できる知識と技術を学び・磨くことができる教育と環境を提供します。機械工学科の教育課程は受検生の皆さんが高等学校等で修得した知識を基に、実践的機械技術者に必要とされる専門基礎知識を体系的に学ぶことができるようになっています。また、5学年に進級すると技術者に必要とされる倫理や、学生各人の興味や関心に応じた応用的な専門知識を学びます。更に卒業研究を通じて実践的な問題に取り組み、それまでに学修した知識を総合して実際に活用することやデータの分析、そして自分の研究成果を他者に文書・口頭発表など様々な形式で効果的に伝える技法を修得します。

電気情報工学科

電気情報工学科では「コンピュータ・情報・通信」から「電力・エネルギー技術」まで、電気と情報にかかわる分野をより高度に学習できます。そして、電気磁気学や電気回路の基本的な教科をベースとし、コンピュータ・シミュレーションなどの情報技術を活用することで現在の技術者に必要とされている素養も身につけることができます。

高学年においては、コンピュータ工学などの専門共通教科に加え「電力エネルギー・パワーエレクトロニクス」や「電子回路・ソフトウェア・情報通信」分野の選択教科を学べます。科目はコース制ではなく、自分の適性や進路希望に合わせた選択ができます。

特に、卒業研究では「次世代電気自動車」や「スマートフォン／クラウドシステム」「スマートグリッド」など新技術の開発や、「超伝導新素材」「ナノテクノロジー」などの最先端の研究も行っています。

卒業後の就職先は電気・電子・情報・通信・重工業・運輸と非常に多岐にわたっており、不況時でも大変堅調です。これらはあらゆる産業で電気が必要とされていることの証明です。また、本校の専攻科をはじめ、国立大学の様々な学科に進学することができます。

電子制御工学科

電子制御工学科の教育課程は、教育目標を達成するために、基礎科目から応用科目までを系統的に学べるように設定されています。低学年では各分野の基礎科目を開設し、高学年では各分野の応用として計算機工学、ソフトウェア工学、人工知能、電子デバイス、マイコン制御、ロボット制御工学、機械運動学等を開設しています。5年生では各分野を更に深く学べるように、コンピュータネットワーク、電子物性等の専門選択科目を開設しています。また、各学年では各分野に関連した実験・実習を行うことにより実践力を養えるように工夫するとともに、卒業研究では実践的な課題への取り組みを通して創造性を伸ばすことに力を注いでいます。

また、本学科では、コンピュータを中心にした教育環境の充実を図るために、パソコン 50 台を備えた情報処理演習室を独自に設けて、演習や実験において電子回路系・機械系 CAD、科学技術計算ソフトウェア等の利用やマイコン・プログラミング等を通して最先端の技術を学ぶことができるようにしています。また、情報処理教育にも力を注いでおり、毎年、情報処理技術者試験など資格試験に合格者を出しています。また、高専の特徴である「ものづくり力」を育てるために、高専ロボコンや高専プロコン

に積極的に参加するとともに、公開講座・出前講座を実施して、小・中学生がロボットや電子回路作りを体験できる機会を設けています。

このような教育内容は進路にも生かされています。就職先は電子・情報・機械等の幅広い分野にわたり、就職希望者（約 70%）はほとんどが希望する企業への合格を果たし、進学希望者（約 30%）も国公立大学や高専の専攻科に進み、さらにそこから大学院へと進学しています。

物質工学科

物質工学科は、化学及び生物を基盤とし、それらから派生する工学の基礎知識と技術を備えた実践的技術者を養成することを目的としています。まず、講義・演習・実験を通して、物質工学の基礎科目である分析化学、無機化学、有機化学、物理化学、化学工学、生化学、環境科学などを学び、その後、第 5 学年で材料工学コースまたは生物工学コースのいずれかを選択し、前者では高分子化学、材料プロセス工学、後者では分子生物学、細胞工学などの応用科目を学ぶことにより、希望する専門的な知識をさらに深めることができるように配慮されています。この一連の学修により、様々な問題解決を行うことができる化学系技術者を養成するカリキュラムになっています。

物質工学科は基礎教育を重視しているため、様々な分野への就職や進学を選択できることが特徴です。特に、大学 3 年次への編入学は容易で、半数程度の卒業生が国公立大学の工学部、理学部、農学部を中心に進学しています。最近では、本校専攻科物質工学専攻への進学も増えています。

建築学科

建築学科では、建築を人間が社会生活を営む空間を創造する行為ととらえ、芸術と技術の融合教育を目指しています。具体的には、社会環境及び建築技術の革新に合わせた知識・技術を習得し、建築の企画、設計、生産に従事する創造的な実践的技術者の養成を目標としており、カリキュラムは力学や材料学等の理系の科目だけではなく、計画、歴史、デザイン等の文系科目を含む幅広い分野の専門科目について学修する構成としています。また、設計・実習科目においては現在活躍中の建築家を中心に多数の非常勤講師を迎え実践的な教育を行うとともに、校外の設計競技やコンテストへの参加を積極的に取り入れた創造的な教育を行っています。

以上のような包括的なカリキュラムを修めることで卒業後の進路は就職・進学ともに幅広い選択が可能であり、就職先としては、建築関連の企画・設計・生産・維持管理を行う企業や建築行政を行う官公庁を、また、進学先としては、本校の専攻科（建築学専攻）や国公立大学の建築系学科への 3 年次編入を挙げるすることができます。最近では卒業生の 3~4 割が進学しています。なお、所定の単位を修得して卒業すると、ただちに一級・二級建築士の受験資格が得られ、合格後一級建築士については 4 年の実務経験の後に、二級建築士についてはすぐに登録できます。

4 入学時に必要な経費

項目	金額	備考
入学料	84,600 円	入学時
授業料	前期分 117,300 円	年額 234,600 円
諸費用	95,000 円程度	教科書代、体操服代等

(1) 授業料は予定額であり、入学時書類を送付する際に確定額を通知します。

(2) 在学中に授業料の改定を行った場合には、改定時から新授業料を適用することとなります。

5 奨学金制度

経済的理由により修学が困難な者については、日本学生支援機構等の奨学金制度があります。詳しくは学生課学生係（TEL0859 - 24 - 5023）へお尋ねください。

6 入学料・授業料免除制度

経済的理由により入学料・授業料の納付が困難な者については、免除制度があります。
詳しくは学生課学生係（TEL0859 - 24 - 5023）へお尋ねください。

7 学生寮

遠隔地からの入学生のために学生寮があります。単なる宿泊施設としてではなく、集団生活を通して人間形成をめざす教育の場としての特徴をもっています。

学生寮は、鉄筋3～4階建が5棟あり、収容定員は315名（うち女子79名）です。

主な必要経費は寄宿料として月800円、管理費として月11,000円、食費として月33,000円程度です。

また、入寮時には入寮費として3,000円必要です。

施設としては、食堂・浴室・洗濯場等があり、そのほかに談話室・補食室・休養室及び集会室が設置されています。

高学年は、1室1名で、各室ともベッド・学習机・椅子・本立・ロッカーが備え付けてあります。

別表1

一般科目 教育課程表

区分	授業科目	単位数	形態種別	学年別配当					備考
				1年	2年	3年	4年	5年	
必修得科目	英語総合演習	2	演習				2		
	国語Ⅰ	4	講義	4					
必修科目	国語Ⅱ	3	講義		3				
	国語Ⅲ	2	講義			2			
	現代社会学	2	講義		2				
	地理	2	講義			2			
	歴史Ⅰ	2	講義	2					
	歴史Ⅱ	2	講義		2				
	数学Ⅰ	3	講義	3					
	数学Ⅱ	3	講義	3					
	微分・積分	3	講義		3				
	代数学	2	講義		2				
	解析Ⅰ	3	講義			3			
	解析Ⅱ	2	講義			2			
	情報リテラシ	1	講義	1					
	物理Ⅰ	2	講義	2					
	物理Ⅱ	3	講義		3				
	化学Ⅰ	3(0)	講義	3(0)					
	基礎化学	(3)	講義	(3)					
	化学Ⅱ	2(0)	講義		2(0)				
	生物	(2)	講義	(2)					
	保健・体育Ⅰ	3	実技	3					
	保健・体育Ⅱ	2	実技		2				
	保健・体育Ⅲ	2	実技			2			
	保健・体育Ⅳ	2	実技				2		
	保健・体育Ⅴ	1	実技					1	
	音楽Ⅰ	1	実技	1					
	音楽Ⅱ	1	実技		1				
	英語総合Ⅰ	3	講義	3					
	英語総合Ⅱ	3	講義		3				
	英語総合Ⅲ	3	講義			3			
基礎英語演習Ⅰ	1	講義	1						
基礎英語演習Ⅱ	1	講義		1					
基礎英語演習Ⅲ	1	講義			1				
基礎英語会話Ⅰ	1	講義	1						
基礎英語会話Ⅱ	1	講義		1					
基礎英語会話Ⅲ	1	講義			1				
開設単位数計	78			32	25	16	4	1	
履修単位数計	73			27(29)	25(23)	16	4	1	
選択科目	文学Ⅰ	*2	講義				2		前期開講
	文学Ⅱ	*2	講義				2		前期開講
	文学Ⅲ	*2	講義				2		後期開講
	文学Ⅳ	*2	講義				2		後期開講
	社会科学Ⅰ	*2	講義				2		前後期開講
	社会科学Ⅱ	*2	講義				2		前後期開講
	社会科学Ⅲ	*2	講義				2		前後期開講
	テクニカルイングリッシュ	1	講義				1		
	アカデミックライティング	1	講義				1		
	ベーシックイングリッシュ	1	講義				1		
	多読・多聴英語	1	講義				1		
	プレゼン英語	1	講義				1		
	ドイツ語Ⅰ	2	講義				2		
	中国語Ⅰ	2	講義				2		
	韓国語Ⅰ	2	講義				2		
	ロシア語基礎	2	講義				2		
	ポルトガル語基礎	2	講義				2		
	実用工業英語	2	講義					2	
	英文文法	2	講義					2	
	英語会話	2	講義					2	
	英語演習	2	演習					2	
	時事英語	2	講義					2	
コミュニケーション	2	講義					2		
ドイツ語Ⅱ	2	講義					2		
中国語Ⅱ	2	講義					2		
韓国語Ⅱ	2	講義					2		
解析Ⅲ	*2	講義					2		
開設単位数計	49						31	18	
履修単位数計	9						7	2	
開設単位数合計	127			32	25	16	35	19	
履修単位数合計	82			27(29)	25(23)	16	11	3	

※1 表中の「化学Ⅰ」、「化学Ⅱ」、「基礎化学」、「生物学」及びそれぞれの計欄について、()は物質工学科の単位数を示す。

※2 単位数欄に「*」を記してある科目は学修単位を示し、記してない科目は履修単位を示す。

履修単位：1単位の授業科目を30単位時間（1単位時間は、標準50分）の履修とする単位。

学修単位：当該授業及び授業時間外の学修を含め、1単位の授業科目を45時間の学修とする単位。

別表2

機械工学科 教育課程表

区分	授業科目	単位数	形態 種別	学年別配当					備考
				1年	2年	3年	4年	5年	
必修 得科目	設計製図Ⅰ	2	演習			2			
	設計製図Ⅱ	*4	演習				4		前期2限, 後期2限開講
	設計製図Ⅲ	*4	演習					4	前期2限, 後期2限開講
	機械工学実験実習Ⅰ	3	実習	3					
	機械工学実験実習Ⅱ	3	実習		3				
	機械工学実験実習Ⅲ	3	実験			3			
	機械工学実験実習Ⅳ	3	実験				3		
	機械工学実験実習Ⅴ	3	実験					3	
卒業研究	8	その他						8	
必修 修科目	応用数学Ⅰ	2	講義				2		
	応用数学Ⅱ	2	講義				2		
	応用物理Ⅰ	2	講義			2			
	応用物理Ⅱ	2	講義				2		
	工業英語	*1	講義					1	
	材料力学Ⅰ	2	講義			2			両科目とも履修を要するが、少なくとも一方は修得すること。
	材料力学Ⅱ	2	講義				2		
	工業力学	2	講義			2			3科目とも履修を要するが、少なくとも2科目は修得すること。
	機械振動学	*2	講義				2		後期開講
	機械動力学	*2	講義					2	前期開講
	水力学	2	講義				2		両科目とも履修を要するが、少なくとも一方は修得すること。
	流体力学	*2	講義					2	前期2限, 後期1限開講
	工業熱力学	2	講義				2		両科目とも履修を要するが、少なくとも一方は修得すること。
	熱工学	*2	講義					2	前期2限, 後期1限開講
	機械工学演習Ⅰ	1	演習				1		
	機械工学演習Ⅱ	*1	演習					1	前期開講
	機械材料学Ⅰ	2	講義			2			
	機械材料学Ⅱ	1	講義				1		
	機械工作法Ⅰ	1	講義		1				
	機械工作法Ⅱ	1	講義			1			
	機械工作法Ⅲ	1	講義				1		
	生産システム工学	*2	講義					2	後期開講
	基礎電気電子工学	1	講義			1			
	メカトロニクス	1	講義				1		
	アクチュエータ工学	1	講義					1	
	計測工学	*2	講義					2	後期開講
	制御工学	*2	講義					2	前期開講
	情報処理	1	演習			1			
	図形情報ワークショップⅠ	1	演習	1					
	図形情報ワークショップⅡ	2	演習		2				
	ものづくりワークショップ	1	演習	1					
	機構学	2	講義			2			
	機械設計法	2	講義				2		
基礎製図Ⅰ	2	演習	2						
基礎製図Ⅱ	2	演習		2					
機械工学セミナー	1	講義			1				
環境科学	*2	講義					2	前期開講	
技術者倫理	*2	講義					2	後期開講	
履修単位数計	95			7	8	19	27	34	
選択 科目	校外実習	1	実習				1		
	フロンティア工学セミナー	*1	講義				1		自由選択
	材料力学Ⅲ	*2	講義					2	前期開講
	エネルギー機械	*2	講義					2	1科目2単位を選択する。
	材料工学	1	講義					1	1科目1単位を選択する。
	応用情報処理	1	講義					1	
	開設単位数計	8					2	6	
履修単位数計	3						3		
開設単位数合計	103			7	8	19	29	40	
履修単位数合計	98			7	8	19	27	37	

※ 単位数欄に「*」を記してある科目は学修単位を示し、記してない科目は履修単位を示す。

履修単位：1単位の授業科目を30単位時間（1単位時間は、標準50分）の履修とする単位。

学修単位：当該授業及び授業時間外の学修を含め、1単位の授業科目を45時間の学修とする単位。

電気情報工学科 教育課程表

区分	授業科目	単位	形態種別	学年別配当					備考	
				1年	2年	3年	4年	5年		
必修得科目	電気情報応用実験Ⅰ	3	実験				3			
	電気情報応用実験Ⅱ	3	実験					3		
	卒業研究	8	その他					8		
必修修科目	応用数学Ⅰ	2	講義				2			
	応用数学Ⅱ	2	講義				2			
	応用物理Ⅰ	2	講義			2				
	応用物理Ⅱ	2	講義				2			
	電気数学	1	講義	1						
	電気製図	2	演習	2						
	電気磁気学Ⅰ	2	講義		2					
	電気磁気学Ⅱ	2	講義			2				
	電気磁気学Ⅲ	*2	講義				2		前期開講	
	電気回路Ⅰ	2	講義		2					
	電気回路Ⅱ	2	講義			2				
	電気回路Ⅲ	*2	講義				2		前期開講	
	電気計測Ⅰ	1	講義		1					
	電気計測Ⅱ	1	講義			1				
	電子デバイスⅠ	2	講義			2				
	電子デバイスⅡ	*2	講義				2		前期開講	
	電気機器Ⅰ	2	講義			2				
	電気機器Ⅱ	*2	講義				2		前期開講	
	デジタル回路	2	講義			2				
	電子回路Ⅰ	*2	講義				2		後期開講	
	電子回路Ⅱ	*2	講義					2	前期開講	
	電力工学	*2	講義				2		後期開講	
	制御工学	*2	講義					2	前期開講	
	電気材料	*2	講義					2	前期開講	
	情報処理	2	演習	2						
	プログラミングⅠ	2	演習		2					
	プログラミングⅡ	2	演習			2				
	コンピュータ工学	*2	講義				2		前期開講	
	情報ネットワーク工学	*2	講義					2	後期開講	
	信号処理	*2	講義					2	後期開講	
	電気情報英語	1	演習					1		
	電気情報基礎実験Ⅰ	2	実験	2						
	電気情報基礎実験Ⅱ	2	実験		2					
電気情報基礎実験Ⅲ	3	実験			3					
電気情報工学演習	2	演習				2				
環境科学	*2	講義					2	前期開講	両科目とも履修を要するが、少なくとも一方は修得すること。	
技術者倫理	*2	講義					2	後期開講		
履修単位計	85			7	9	18	25	26		
選択科目	校外実習	1	実習				1			
	フロンティア工学セミナー	*1	講義				1		自由選択	
	パワーエレクトロニクス	*2	講義					2	前期開講	1科目2単位を選択する。
	ソフトウェア工学	*2	講義					2		
	エネルギー変換工学	*2	講義					2	前期開講	1科目2単位を選択する。
	通信工学	*2	講義					2		
	高電圧工学	*2	講義					2	後期開講	1科目2単位を選択する。
	数値計算工学	*2	講義					2		
	電気機器設計	3	講義					3	1科目3単位を選択する。	
	電子回路設計	3	講義					3		
	電気法規	*1	講義					1	前期開講	1科目1単位を選択する。
	情報通信法規	*1	講義					1		
	開設単位計	22						4	18	
履修単位計	10						1	9		
開設単位合計	107			7	9	18	29	44		
履修単位合計	95			7	9	18	26	35		

※ 単位数欄に「*」を記してある科目は学修単位を示し、記していない科目は履修単位を示す。
 履修単位：1単位の授業科目を30単位時間（1単位時間は、標準50分）の履修とする単位。
 学修単位：当該授業及び授業時間外の学修を含め、1単位の授業科目を45時間の学修とする単位。

電子制御工学科 教育課程表

区分	授業科目	単位	形態 種別	学年別配当					備考	
				1年	2年	3年	4年	5年		
必修 得科目	工学実験実習Ⅳ	3	実験				3			
	工学実験実習Ⅴ	3	実験					3		
	卒業研究	8	その他					8		
必修 修科目	応用数学Ⅰ	2	講義				2			
	応用数学Ⅱ	2	講義				2			
	応用物理Ⅰ	2	講義			2				
	応用物理Ⅱ	2	講義				2			
	情報処理Ⅰ	2	講義	2						
	情報処理Ⅱ	2	講義		2					
	計算機概論	2	講義			2				
	電磁気学Ⅰ	2	講義		2					
	電磁気学Ⅱ	2	講義				2			
	デジタル回路Ⅰ	1	講義		1					
	デジタル回路Ⅱ	2	講義			2				
	電気回路Ⅰ	2	講義			2				
	電気回路Ⅱ	*2	講義				2		前期開講	
	電子回路Ⅰ	2	講義			2				
	電子回路Ⅱ	*2	講義				2		前期開講	
	電子計測	2	講義			2				
	電気・電子回路演習	1	演習			1				
	電子制御基礎	1	講義	1						
	基礎製図	2	演習	2						
	設計製図	2	演習		2					
	材料力学Ⅰ	2	講義			2				
	材料力学Ⅱ	*2	講義				2		前期開講	
	機械設計法	*2	講義				2		前期開講	
	機械運動学	*2	講義				2		後期開講	
	自動制御	*2	講義					2	前期開講	
	計算機工学Ⅰ	*2	講義				2		後期開講	
	計算機工学Ⅱ	*2	講義					2	後期開講	
	電子制御回路	*2	講義				2		後期開講	
	センサ工学	*2	講義				2		前期開講	
	電子制御設計	2	講義					2		
マイコン制御	2	演習					2			
人工知能	*2	講義					2	前期開講		
ソフトウェア工学	*2	講義					2	前期開講		
ロボット制御工学	*2	講義					2	後期開講		
電子デバイス	*2	講義					2	前期開講		
工学実験実習Ⅰ	2	実験	2							
工学実験実習Ⅱ	2	実験		2						
工学実験実習Ⅲ	3	実験			3					
環境科学	*2	講義					2	前期開講	両科目とも履修を要するが、少なくとも一方は修得すること。	
技術者倫理	*2	講義					2	後期開講		
履修単位計	92			7	9	18	27	31		
選択 科目	校外実習	1	実習				1			
	フロンティア工学セミナー	*1	講義				1		自由選択	
	コンピュータネットワーク	*2	講義					2	後期開講	1科目2単位を選択する。
	電子物性	*2	講義					2	後期開講	
	開設単位計	6						2	4	
履修単位計	2							2		
開設単位合計	98			7	9	18	29	35		
履修単位合計	94			7	9	18	27	33		

※ 単位数欄に「*」を記してある科目は学修単位を示し、記してない科目は履修単位を示す。

履修単位：1単位の授業科目を30単位時間（1単位時間は、標準50分）の履修とする単位。

学修単位：当該授業及び授業時間外の学修を含め、1単位の授業科目を45時間の学修とする単位。

物質工学科 教育課程表

区分	授業科目	単位	形態種別	学年別配当					備考
				1年	2年	3年	4年	5年	
必修 得科目	物質工学基礎実験	3	実験	3					
	分析化学基礎実験	3	実験		3				
	有機化学基礎実験	3	実験			3			
	生化学・微生物学基礎実験	3	実験			3			
	物質工学実験Ⅰ	3	実験				3		
	物質工学実験Ⅱ	3	実験				3		
卒業研究	12	その他					12		
共通 必修 科目	工業数学Ⅰ	*2	講義				2		後期開講
	工業数学Ⅱ	*2	講義					2	前期開講
	応用物理Ⅰ	2	講義			2			
	応用物理Ⅱ	2	講義				2		
	情報科学Ⅰ	1	実習		1				
	情報科学Ⅱ	1	実習			1			
	物質工学概論	1	講義	1					
	物質工学基礎演習	1	演習	1					
	分析化学Ⅰ	*2	講義				2		前期開講
	分析化学Ⅱ	*2	講義					2	前期開講
	物質工学創造実習	2	実習		2				
	分析化学基礎演習	1	演習			1			
	基礎化学演習	1	演習		1				
	無機化学基礎	1	講義			1			
	無機化学Ⅰ	*2	講義				2		前期開講
	無機化学Ⅱ	*2	講義				2		後期開講
	有機化学基礎	1	講義		1				
	有機化学基礎演習	1	演習			1			
	有機化学Ⅰ	*2	講義				2		前期開講
	有機化学Ⅱ	*2	講義				2		後期開講
	物理化学基礎	1	講義			1			
	物理化学Ⅰ	*2	講義				2		前期開講
	物理化学Ⅱ	*2	講義				2		後期開講
	化学工学基礎	1	講義			1			
	化学工学Ⅰ	*2	講義				2		後期開講
	化学工学Ⅱ	*2	講義					2	前期開講
	生化学基礎	1	講義		1				
	生化学基礎演習	1	演習			1			
	生化学Ⅰ	*2	講義				2		前期開講
	生化学Ⅱ	*2	講義				2		後期開講
	微生物学基礎	1	講義		1				
	高分子化学基礎	1	講義			1			
材料・生物工学概論	1	講義			1				
情報工学	*2	講義					2	後期開講	
環境科学基礎	1	講義			1				
電気・機械実習	2	実習				2			
環境科学	*2	講義					2	前期開講	
技術者倫理	*2	講義					2	後期開講	
履修単位計	90			5	11	18	32	24	
コース 必修 科目	高分子化学	*2	講義					2	前期開講
	有機・無機材料	*2	講義					2	前期1限, 後期1限開講
	履修単位計	4						4	
	生化学Ⅲ	*2	講義					2	前期開講
	生化学Ⅳ	*2	講義					2	前期1限, 後期1限開講
履修単位計	4						4		
選択 科目	校外実習	1	実習				1		
	フロンティア工学セミナー	*1	講義				1		自由選択
	開設単位計	2					2		
履修単位計	0								
開設単位合計	100			5	11	18	34	32	
コース別開設単位合計	96			5	11	18	34	28	
履修単位合計	94			5	11	18	32	28	

※ 単位数欄に「*」を記してある科目は学修単位を示し、記してない科目は履修単位を示す。
 履修単位：1単位の授業科目を30単位時間（1単位時間は、標準50分）の履修とする単位。
 学修単位：当該授業及び授業時間外の学修を含め、1単位の授業科目を45時間の学修とする単位。

建築学科 教育課程表

区分	授業科目	単位	形態 種別	学 年 別 配 当					備 考
				1年	2年	3年	4年	5年	
必修 得科目	卒業研究	6	その他					6	
	建築法規	*2	講義				2		後期開講
	建築環境	*2	講義				2		前期開講
	建築設備	*2	講義				2		後期開講
	建築材料	*2	講義				2		前期開講
	建築生産	*2	講義				2		後期開講
必修 修科目	応用数学	2	講義				2		
	応用物理	2	講義				2		
	建築入門	1	講義	1					
	デザイン基礎Ⅰ	2	実習	2					
	デザイン基礎Ⅱ	2	実習		2				
	デザイン基礎Ⅲ	2	実習			2			
	構造力学Ⅰ	2	講義			2			
	構造力学Ⅱ	2	講義			2			
	建築構造Ⅰ	2	講義	2					
	建築構造Ⅱ	2	講義		2				
	構造力学Ⅲ	*2	講義				2		前期開講 両科目とも履修を要する が、少なくとも一方は修得 すること。
	構造力学Ⅳ	*2	講義				2		前期開講
	構造計画	*2	講義				2		後期開講
	基礎構造	*2	講義				2		前期開講
	各種構造Ⅰ	*2	講義				2		前期開講
	各種構造Ⅱ	*2	講義				2		後期開講
	建築計画Ⅰ	2	講義			2			
	建築史Ⅰ	2	講義			2			
	建築計画Ⅱ	*2	講義				2		前期開講
	建築史Ⅱ	*2	講義				2		前期開講
	都市計画	*2	講義				2		前期開講 全科目とも履修を要する が、少なくとも4科目は修 得すること。
	環境計画	*2	講義				2		後期開講
	建築意匠論	*2	講義				2		後期開講
	建築情報Ⅰ	2	実習		2				
	建築情報Ⅱ	2	実習			2			
	設計製図Ⅰ	2	実習	2					
	設計製図Ⅱ	3	実習		3				
	設計製図Ⅲ	6	実習			6			
	設計製図Ⅳ	6	実習				6		
	設計製図Ⅴ	2	実習				2		
	創造実験・演習	2	実験					2	
	CAD・CG	2	演習				2		
建築ゼミナール	2	演習				2			
環境科学	*2	講義					2	前期開講 両科目とも履修を要する が、少なくとも一方は修得 すること。	
技術者倫理	*2	講義					2	後期開講	
履修単位数計	94			7	9	18	30	30	
選択 科目	校外実習	1	実習				1		
	フロンティア工学セミナー	*1	講義				1		自由選択
	開設単位数計	2					2		
	履修単位数計	0							
開設単位数合計	96			7	9	18	32	30	
履修単位数合計	94			7	9	18	30	30	

※ 単位数欄に「*」を記してある科目は学修単位を示し、記してない科目は履修単位を示す。

履修単位：1単位の授業科目を30単位時間（1単位時間は、標準50分）の履修とする単位。

学修単位：当該授業及び授業時間外の学修を含め、1単位の授業科目を45時間の学修とする単位。